

令和5年度 経営協議会学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組

本学では、経営協議会において法定審議事項とは別に討議事項を設け、経営者等外部委員の幅広い経験・視点からの助言をいただき、大学運営の改善等に役立てている。

令和5年度においても以下のとおり様々な助言等をいただき、改善に役立てている。

令和5年度第5回経営協議会（令和6年3月27日（水）開催）

Ⅲ 討議事項

1 大学運営における戦略立案機能の強化と“教学イノベーション機構”の設置について

※令和5年度第5回経営協議会議事要録参照

【大学運営の改善等に関する意見】

- ① スチューデントサクセスセンターの構想は、大学が学生の目線に立った改革として、非常によく練られており評価できる案だと思う。
- ② スチューデントサクセスセンターやアウトリーチの構想による組織強化は、大学を更に強化するための良い改革であると思う。実施に当たっては、教職員の増員や配置体制等を考慮し、取り組んでいただきたい。
- ③ 今後、少子化が社会全体に大きな影響を及ぼす時代になってくる中で、是非、地域の知の拠点として、茨城大学が中学生や高校生にもアプローチをするしくみを積極的に作り地方大学としての茨城大学に目が向くようにしていただきたい。それには、高大連携・高大接続は非常に大事だと考えるので、入試改革を含めて取り組んでいただきたい。

【本学の対応】

- ① 教育組織改革として「教学イノベーション機構」を令和6年4月に設置することとした。特にスチューデントサクセスセンターは、「学生の自己実現（なりたい自分になる）」の達成に向けて、学生の将来像づくりを支え、学生の目的に合わせた相談窓口を設置する等の学生生活、学業等への支援を教職協働で総合的にサポートし、本学のディプロマポリシーに即した人材の育成を充実させていく組織として、より高い教育を実施できるよう引き続き教育内容を検討していきます。

② 「イバダイ・ビジョン 2030」の達成に向けて「大学運営での戦略立案機能の強化」、
「学修者本位の教育のさらなる追求」、「研究アウトリーチや志願者獲得のための広報機能
の強化」を実現するための改革として、「スチューデントサクセスセンター」、「研究アウ
トリーチ」の充実を図りました。これら新たな組織運営のために業務内容、規模を考慮した
人員を配置した上で、学生サービスの向上や地域社会への大学の教育研究活動の発信に向け
て、教職協働による連携体制をもって大学運営に努めていきます。

③ 大学が中学生や高校生にもアプローチをする仕組みについて、従来のオープンキャンパス
では、本学の志願者増加を目的として開催してきたが、令和6年度から広報・アウトリーチ
支援室が企画統括を担当し、ACや学部等と連携して実施する体制に変更し、教育・研究リ
ソースの幅広い対象への「リーチ」拡大の側面を重視することとし、地域住民や小中学生に
も楽しめるコンテンツを提供することを検討していきます。

高大連携・高大接続について、令和4年4月より高校教育の現場では、新しい学習指導要
領による教育が始まった。その一つが「総合的な探究の時間」である。本学としては、高等
学校からの要望もあり、令和5年度から「探究活動におけるメンター（助言・指導）制度」
を試行的に開始した。まだ始まったばかりであるため、今後この取組を検証しつつ進めてい
きます。